

小学生への性教育方法の開発

堀内寛子 服部律子 清水智美 兼子真理子 藤迫奈々重 (大学)
川崎裕子 安田伸子 河合由美子 (竹鼻小学校)

I. 研究目的:平成12年文部省(当時)は各学校へのお願いとして子どもたちに「いのちの大切さ」を教える時間をもつようにと「いのちの教育」の必要性を通達している。それを受け、全国で独自の「いのちの教育」の取り組みがなされている。

今回、岐阜県においても大学と小学校が連携して「いのちの教育」の実践を試みた。今年度は、その実践までのプロセスと実践内容を報告するとともに、子どもたちや教員の反応から次年度に向けた課題を明らかにすることを本研究の目的とする。

II. 方法:小学校3年生2クラス(33名, 32名), 6年生1クラス(25名)を対象に「いのちの教育(性教育)」授業を3回実施した。授業終了後、3年生には「感想文(今日わかったことなど)」、6年生には「今日わかったこと」、「今日心に残ったこと」、「もっと知りたいこと」について記述してもらった。教員には全体に関する感想を述べてもらった。

分析は、今回の実践内容で児童が何を学び得たのか、何をもっと知りたいと思ったのかを明らかにするように内容を整理した。

実践日は、平成14年10月22日と平成15年1月28日であった。

III. 結果

1. 実施までのプロセス

平成14年3月に1回、8月に1回の事前打ち合わせにて小学校関係者のニーズと私たちの目指している性教育についてディスカッションしながら今回の授業の内容を検討した。結果、小学校3年生には「命の誕生」、「命の大切さ」、小学校6年生には「正しい性交の知識」、「性感染症の知識」をキーワードとした授業の実践を試みるようになった。

2. 実践の実際

1) 3年生のテーマは、「おなかの中のわたし—おへそのかつやく—」とし、「おへその役割を通していのちを考え、母親と自分のつながりを理解する」、「生まれる前にわたしはと

ても頑張ったから今ここにいることを理解する」。という2点を授業のねらいとして展開した。

2) 6年生のテーマは、「赤ちゃんができるということ」とし、「2次性徴について学び、生殖が可能になる身体に変化することから、受精と妊娠について理解する」、「受精には性交が必要であることを理解し、望まない妊娠や性感染症の危険もあることも学ぶ」ことをねらいとし展開した。

3) タイムテーブル 資料1, 2

3. こどもたちの反応

3年生は、新しい知識の習得(および知識の再確認)、体験を通して感じたこと、新しい知識と体験を通して感じたことについての記述に分けられた。その細項目は、新しい知識では、「赤ちゃんは、お母さんからえいようやさんそをもらうということが、わかりました」のように①お臍の役割がわかった、②胎児の成長・発達がわかったでは、「さいしょは0.6mmだったけどだんだん大きくなってきてさいごは30cmをこしました。つくえのはんぶんこしました」、③胎盤・羊水・卵膜があることがわかったでは、「たいばんなんてあるとは知りませんでした」、「赤ちゃんは袋の中の水の中にいることがわかった」、④ママのからだは赤ちゃんもつかうということがわかったでは、「人間のおなかの中は人間がいきるためだけでなく赤ちゃんもちゃんもつかうことがわかった」などの4項目であった。

体験を通して感じたことでは、①赤ちゃんは重いでは、「こんなに重いなんてぜんぜん知らなかったです」、②赤ちゃんは重いだからお腹が痛いでは、「わたしをうんだときは、すぐおもかったと思う。うまれるときは、いたかったと思う」、③赤ちゃんはかわいい、やわらかい、ぐにゃぐにゃでは、「赤ちゃんはかわいかったです」、「はじめて、うまれたばかりをみて、さいしょはさわるのがこわかったのにきゅうにこわくなくなりました」、④赤ちゃんは気をつけて抱かなくていけない、大事な

赤ちゃんでは、「はじめてだっことして赤ちゃんだ
いじだなーと思いました」などであった。

新しい知識と体験を通して感じたことでは「お
母さんわたしにじゅう分にえいようをたくわえ
ておおきくそだててくれてありがとう！わたし
はこれからおおきくそだつよ！うんでくれてあ
りがとう」のように①家族への感謝や、②ママの
苦労がわかったでは、「お母さんがすごくくろ
うしたのがじゅぎょうをしてわかりました」、③マ
マが頑張ってくれたから今の自分がある、よかつ
たでは、「お母さんがうんでなかったらわたしは
今いなかったよ！」、④たくさんの人に守られて
いる喜びでは、「お母さん、お父さん、おばあ
ちゃん、おじいちゃん、ありがとう。ぼくをうん
でくれたおかあさんありがとう。おうんしてくれ
た、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃん、あ
りがとう。ぼくがうまれたとき、おかあさんが、
『うまれてきてありがとう』といってくれ、どう
もありがとう」、⑤わたしが病気をしたら悲しむ
では、「わたしがびょう気になると、すごくかな
しむだろうなと思いました」、⑥これからは自分
で自分のことをしていきたいでは、「わたしはこ
れからおおきくそだつよ！」、⑦おへそは頑張
った、私たちも頑張ったでは、「じぶんもがんば
ったとわかりました」、⑧おへそへの感謝では、「お
へそありがとう。おせわになりました」などであ
った。(表1)

表1 3年生の反応

- | |
|--|
| <p>I.新しい知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.お腹の役割がわかった 2.胎児の成長・発達がわかった 3.胎盤・羊水・卵黄があることがわかった 4.ママのからだは赤ちゃんもつかうということがわかった <p>II.体験を通して感じたこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.赤ちゃんは重い 2.赤ちゃんは重いからお腹が痛いんだ 3.赤ちゃんはかわいい、やわらかい、ぐにゃぐにゃ 4.赤ちゃんは気をつけて抱かなくていけない、大事な赤ちゃん <p>III.新しい知識と体験を通して感じたこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.家族への感謝 2.ママの苦労がわかった 3.ママが頑張ってくれたから今の自分がある、よかつた 4.たくさんの人に守られている喜び 5.わたしが病気をしたら悲しむ 6.これからは自分で自分のことをしていきたい 7.おへそは頑張った、私たちも頑張った 8.おへそへの感謝 |
|--|

6年生は、新しい知識の習得(および知識の再
確認)、新しい知識と今までの体験を通して感じ
たことについての記述に分けられた。

その細項目は、新しい知識では、①二次性徴に
ついて、二次性徴には個人差がある、②体のしく
み、③二次性徴と妊娠、④性交で赤ちゃんが生ま
れる、⑤赤ちゃん誕生の確率の低さ、⑥避妊、⑦
望まない妊娠、⑧性感染症などであった。

新しい知識と今までの体験を通して感じたこ
とでは、「自分はすごいかくりつの中から選ばれ
た1人ということを知ってすごくびっくりもし

たし、うれしく思いました」のように、①わたし
たちは選ばれた存在なのだや、②生まれてこれ
て良かったでは、「自分も1600億の中の1人だ
ったのははじめてして生まれてこれてよかった」、
③わたしを産んでくれた親への感謝では、「私た
ちも1600億分の1のかくりつで、お父さんと
お母さんの間から、生まれてきたので、お父さん
とお母さんを、大事にして、感謝しなくては、い
けない」、④人の命の大切さでは「人の命は大切
にしてほしいなあと思いました。自分の体も大切
にしたい」などであった。(表2)

表2 6年生の反応一わかったこと一

- | |
|---|
| <p>I.新しい知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.二次性徴 個人差がある 2.体のしくみ 3.二次性徴と妊娠 4.性交で赤ちゃんが生まれる 5.赤ちゃん誕生の確率の低さ 6.避妊 7.望まない妊娠 8.性感染症 <p>II.新しい知識と今までの体験を通して感じたこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.わたしたちは選ばれた存在なのだ 2.生まれてこれて良かった 3.わたしを産んでくれた親への感謝 4.人の命の大切さ |
|---|

さらに、心に残ったことでは、①『せいこう』
というのはとても大事なこと、②赤ちゃんがで
きるのは大変なこと、③生まれてこれて良かった、
④自分を大切にしたい、⑤人の命の大切さ、⑥望
まない妊娠はしたくない、⑦性感染を人にうつし
たくない、⑧親への感謝などがあった。(表3)

表3 6年生の反応一心に残ったこと一

- | |
|---|
| <p>I.新しい知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.二次性徴 2.二次性徴と妊娠 3.性交で赤ちゃんが生まれる 4.赤ちゃん誕生の確率の低さ 5.望まない妊娠 6.感染症 7.避妊 <p>II.新しい知識と体験を通して感じたこと</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.『せいこう』というのはとても大事なこと 2.赤ちゃんができるのは大変なこと 3.生まれてこれて良かった 4.自分を大切にしたい 5.人の命の大切さ 6.望まない妊娠はしたくない 7.性感染を人にうつしたくない 8.親への感謝 |
|---|

教員の反応は、3年生の授業では、板書をして
欲しい、肌ざわり、重さが体感できる人形は良か
ったなどであった。6年生の授業では、二次性徴
は既習内容であったので、性交や性感染症、コン
ドームの実演などについて時間をかけても良か
った、板書を工夫して欲しい、性交に関していや
らしいイメージをもたずに聞けたと思うなどで
あった。(表4)

表4 教員の反応

- 3年生の授業
- × 板書をして欲しい
 - 肌ざわり、重さが体感できる人形は良かった
- 6年生の授業
- × 二次性徴は既習内容であったので、性交や性感染症、コンドーム等について時間をかけても良かった
 - × 板書の工夫
 - 性交に関していやらしいイメージをもたずに聞けたと思う

IV. 考察

3年生では、臍の役割がわかったことを通して「家族への感謝」を記述していた。それを図式化すると図1の通りである。つまり、自分と母親は臍帯でつながっていた。そして、母親から酸素、栄養をもらい成長した。よって、「ママが頑張ってくれたから今の自分がある、よかった」なぜなら「臍が切れたら死んでしまう」、「ママが病気になったらダメ」だからと記述されていた。また、このことを通して、「お臍はすごく、大切なもの、大切な役割」、「赤ちゃんを育てるのは大変」ということを実感し、『お母さんお父さんありがとう。生まれるまで、酸素や血液や愛情ありがとう』のように「家族への感謝」が記述されていた。

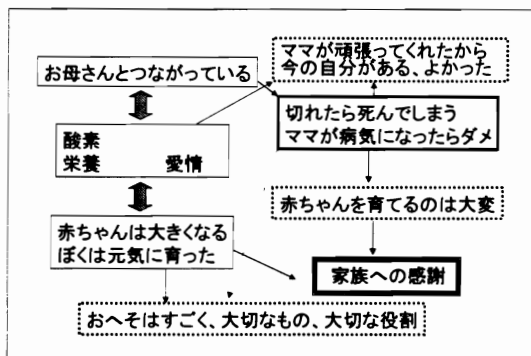


図1 お臍の役割からわかったこと

また、「家族への感謝」は、赤ちゃん抱っこの体験学習を通して記述されていた。つまり、3年生では新しい知識と体験学習を通して「家族への感謝」という切り口から「ママの苦勞がわかった」、「ママが頑張ってくれたから今の自分がある、よかった」、と感じそのことは「たくさんの人に守られている喜び」へとつながっていた。家族に大切にされてきたことを実感した子どもたちは、だから「わたしが病気をしたら悲しむ」のだと記述していた。また、今まで多くの人に守られていたがこれからは、「自分で自分のことをしていきたい、守りたい、大切にしたい」と自分で自分を大切にすることに気づいた子どももいた。同時に、この世に生をうけることは「私たちが頑張った」のだと自尊心を高めることにもつながったと思われる記述もあった。(図2)

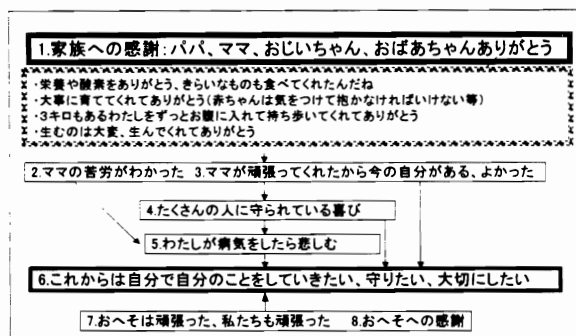


図2 子どもたちが感じたことの関連図

6年生では、赤ちゃん誕生の確率の低さという科学的な事実と今までの授業での人権学習などの体験が切り口となっていると思われる記述が多かった。つまり、「赤ちゃん誕生の確率の低さ」から、「赤ちゃんができるのは大変なこと」であると気づき、「生まれてこれて良かった」と記述している。また、生まれてくるためには生んでもらうことが必要ということから「親への感謝」につながっていた。同時に、「赤ちゃん誕生の確率の低さ」から、「自分を大切にすること」や「人の命の大切さ」を感じとっていた。また、今回の授業では望まない妊娠や性感染症の危険があるという事実を伝えただけであったが、子どもたちは「自分を大切にしたい」、「人の命も大切」という切り口から「望まない妊娠はしたくない」や「性感染症をうつしたくない」と記述していた。このことは「自分も大切、だから人も大切」という性教育の根幹の部分を自然に感じており、小学生から行う性教育の重要性を再認識できた。同時に人間にとって「せい」の大切さも感じており、科学的根拠に基づいた事実を伝えるだけで、小学生でも、性の大切さを学ぶことができるのだと再認識できた。(図3)

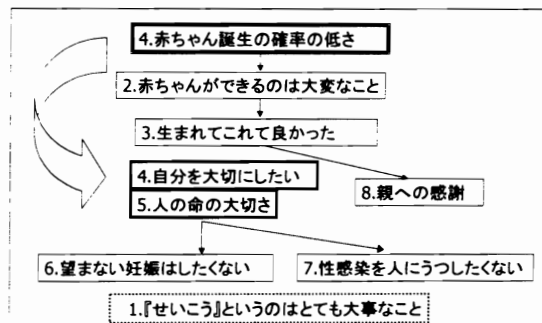


図3 子どもたちが感じたことの関連図

V. 討論から得られた示唆

フローからは「なぜ、小学生への性教育なのか?なぜ小学校3年生なのか?」といった質問がでた。本研究の次年度の課題として、小学校6年間における性教育のカリキュラムを学校側と

もに考えていくことをあげている。つまり、どの時期にどのような内容を子どもたちに伝えるのが最も有効なのかを検討する必要がある。最新の報告では小学校5年生に行うことが有効とされているが我々は6年間を系統立てて考えていきたい。また、「中学、高校ではこれだけ素直に感じとってくれない。性がいやらしいと感じる前に正しい性に関する知識を伝えることは重要である」という意見もでた。また、多くの中学、高校の養護教諭は「今から（中学、高校）では遅い。実際、妊娠する生徒もいる。やはり小学校での性教育をしっかりとする必要がある」と小学校における性教育の有効性と期待を再認識した。

「コンドームの使い方を教えて欲しい」という教員の反応に関しても議論した。大都市の中学校でコンドームの実演の授業を行ったことがマスコミに大きく取り上げられ、それに対して賛否両論だったことから、コンドームの実演の授業は小学生には早すぎるのではないかと考え、今回は実践しなかった。それに対する意見をフロアーに聞いた。全員、小学校から教える必要があるとのことであった。理由は前述のように、中学、高校生の妊娠が珍しくない現状であることを踏まえると避妊の方法を教える必要がある。又、「もっと、現実を知って欲しい」、「性教育は寝た子を起こすと言われているが、今の子はもう寝ていない、起きている。だから、きっちり教える必要がある」との意見に納得するものが多かった。

小学校の性教育では校長先生の協力なしには成り立たないことも再認識できた。今回、実践できたT小学校を一つのモデルとして、羽島市内の小学校が同じような性教育を受けられるようにそれぞれの、立場でできることを確認しあいながら長期計画ですすめていきたい。

VI. まとめ

- 3年生は授業での知識と体験を通して、母と自分のつながりや、家族とのつながりに気づき、「家族への感謝」や「自分を大切にすること」を感じていた。
- 6年生は今回の授業での知識を今までの学校における学習体験とを結びつけて、「赤ちゃん誕生の確率は奇跡である」ことに気づき、それを切り口として、「自分の命の大切さ」、「人の命の大切さ」を感じ、だから、「望まない妊娠はしたくない」、「性感染を人にうつしたくない」といった思考へと結びついていた。

3. 授業内容は異なっても、性教育の根幹である「自分も大切、だから人も大切」といったメッセージは読み取っていた。

VII. 今後の課題

1. 今後も、小学校との事前打ち合わせ（内容や時間配分等）を綿密に行い、小学生への性教育を継続させていきたい。
2. 単発で行うのではなく、小学校1年生から6年生までの6年間を通して系統的に、行っていきたい。
3. T小学校での実践が一つのモデルとなり、今後羽島市内の小学校でも同様の授業が受けられるようなシステム作りを行っていきたい。



小学校3年生の授業風景
ものさしで胎児の大きさを実感



小学校3年生の授業風景
赤ちゃんを抱っこ



小学校6年生の授業風景
二次性徴について話し合ったことを板書

資料 1

3 年生授業案

テーマ：おなかの中のわたし
—おへそのかつやく—

ねらい：・おへその役割を通していのちを考え、母親と自分のつながりを理解する。
・生まれる前にわたしはとても頑張ったから今ここにいることを理解する。

対象：3 年生

タイムテーブル

時間配分	指導内容・方法	教材
3 分	導入 自己紹介など	
10 分	わたしはどこからきたの？ →最初は針の穴より小さな卵から始まり約 10 ヶ月の間母親のおなかの中で成長していくことを伝える。	胎児模型 ものさしで実際の胎児の大きさを実感させる。 新生児人形
7 分	おなかの中の赤ちゃんって生きているの？何も食べないでどうして大きくなるの？ →子どもへの問いかけ	
15 分	・赤ちゃんは生きているのだ！ ・へその緒はママとわたしをつないでいた不思議なヒモ ・何も食べていないけれどママから食べ物や空気ももらっていたのだ！ →へその緒によってママと私がつながっていたことを伝える →栄養はへその緒を使って届けられること、口や鼻で息はできないけれどへその緒がその役割をしてくれたことを伝える →わたしたちはママの力を借りてお腹の中で一生懸命生きてきたことを伝える。	胎盤・臍帯模型 ペープサート <内容> 「私はあなたとお母さんのつながりをもつことが仕事でした。お母さんからの栄養をあなたの体内に運び、あなたがいらなくなったものをお母さんに捨ててもらうように運びました。あるときはあなたの気持ちを伝えたり、栄養が偏らないようにサインを出して、お母さんに知らせることもはしました。それは何か月も続きました。あなたが元気に生まれてくることに精一杯努力してきました。でも、あなたが生まれてくることを確認すると、わたしは直ちに切り離されました。なぜなら、あなたはもうわたしがいなくても生きていけるのだから……。でも、わたしがいたことをあなたに忘れてほしくないのですあなたのおなかに私がいたのだという印をつけました。それがおへそです」
5 分	お風呂で自分のおへそを見よう！ →ママが大事に育ててくれた証明書 →わたしが頑張った証明書	
5 分	わたしのおへそ、おかあさんに手紙を書く。→児童の感想を知ることを目的とする	記入のシートを配布

資料 2

6 年生授業案

テーマ： 赤ちゃんができるということ

ねらい： 2次性徴について学び、生殖が可能になる身体に変化するということから、受精と妊娠について理解する。また受精には性交が必要であることを理解し、望まない妊娠や性感染症の危険もあることも学ぶ。

対象：6年生

時間配分	指導内容・方法	教材
3分	自己紹介・導入	
10分	大人になるってどういうこと？ 自分たちのことも考えて、身体と心の両面から変化をとらえる グループワーク	
5分	グループの話し合いの発表 身体と心の両面について意見を板書する	2次性徴の男女別の表を黒板に貼る
5分	2次性徴（大人の身体と心になる）は赤ちゃんを産み育てることができるようになるための準備の段階であることを言う。 赤ちゃんを産み育てることには、赤ちゃんができる、赤ちゃんを産む、赤ちゃんを育てる、段階がある。 では、赤ちゃんはどうしてできるのか？	
7分	好きになる気持ち、一緒にいたい気持ちが高まるとふたりのからだもひとつになる（これ以上近づけないところまで近づく） 性交とは・・・ペニスが硬く大きくなって膣に入ることの説明する。	男女のはだかの絵を貼る 男女の生殖器の図を貼る
5分	精子が膣の中に入り、泳いでいって卵子までたどり着き、受精することを説明する 受精卵が分割して胎児になる	受精にいたるまでの図を貼る
5分	でも望まない妊娠や病気も移ることを説明する	望まない妊娠と病気（性感染症）文字を貼る
5分	まとめ 赤ちゃんができるってということが理解できたかな？お父さんとお母さんが愛し合って性交という行為をして赤ちゃんができる。	